

学生の確保の見通し等を記載した書類

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	P1
① 学生の確保の見通し	P1
ア 定員充足の見込み	P1
イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	P2
ウ 学生納付金の設定の考え方	P9
② 学生確保に向けた具体的な取組状況	P10
(2) 人材需要の動向等社会の要請	P13
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)	P13
② 社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであること の客観的な根拠	P14
ア 現況と人材需要	P14
イ 今後の求人見通し	P15

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

平成 32 (2020) 年和歌山市に設置構想中の宝塚医療大学和歌山保健医療学部リハビリテーション学科の入学定員を理学療法学専攻 60 人・作業療法学専攻 40 人の合計 100 人とし、収容定員はそれぞれ、240 人、160 人の合計 400 人とした。この入学定員の設定にあたっては、近畿地区における同系統の学部学科の設置状況、入学定員、入学志願者の状況等、さらには当該学部を設置構想予定地域の周辺状況（和歌山県及び大阪府南西部地区）のリハビリテーション系大学の入学定員等から判断して入学定員を設定した。また、上記の要件に加え「理学療法士・作業療法士学校養成施設指定規則」にある 1 クラスの定員等も考慮し、教育効果や学習効率を十分に達成できる環境を構築する上で支障のない人数として、総合的に判断して決定した。参考までに、本学既設の理学療法学科の入学定員は 70 人である。

設定した入学定員については、以下に記す要件を検証して充足できるものと考えている。

1) 入学定員設定の考え方

○近畿地区及び構想中の和歌山保健医療学部の近隣地区の理学療法士・作業療法士養成大学等の現況

平成 30 (2018) 年現在の近畿地区の私立大学の理学法士養成学科（専攻）は、本学を含めて 20 校あり、合計の入学定員は 1,176 人である。また、作業療法士養成学科（専攻）は 13 校あり、合計の入学定員は 540 人である。これを入学定員からみると、理学法士養成学科（専攻）の定員は 20 校中、60 人から 80 人とする大学が 13 校、40 人とする大学が 7 校であり、平均すると 58.8 人となる。作業療法士養成学科（専攻）の定員は 13 校中、50 人から 60 人とする大学が 2 校、40 人とする大学が 11 校、30 人とする大学が 1 校であった。平均すると 41.5 人となり、入学定員が 40 人の大学が圧倒的に多かった。

また、近隣地区の大学は和歌山県に 1 校もなく、大阪府南西部に 2 校が設立されている。

入学定員は、理学法士養成学科（専攻）は 2 校とも 60 人、作業療法士養成学科（専攻）は 50 人と 60 人である。このような近畿地区、近隣地区の定員並びに定員充足状況（後述）を参考として、入学定員を理学療法学専攻 60 人・作業療法学専攻 40 人の合計 100 人とした。

【資料 1-1】平成 30 (2018) 年度近畿地区における私立大学の理学療法士養成校の入学定員

【資料 1-2】平成 30 (2018) 年度近畿地区の理学療法士養成校入学定員一覧

【資料 2-1】平成 30 (2018) 年度近畿地区における私立大学の作業療法士養成校の入学定員

【資料 2-2】平成 30 (2018) 年度近畿地区の作業療法士養成校入学定員一覧

【資料 3】宝塚医療大学の既設学部・学科の入学定員

注) 大阪府南西部と記述の市町村は、堺市・和泉市・和泉大津市・高石市・岸和田市・貝塚市・泉佐野市・泉南市・阪南市・忠岡町・熊取町・田尻町・岬町の 13 市町村で数値化を行った。

2) 入学定員充足の見込み

○保健系学部(特に理学療法士・作業療法士養成大学)入学志願動向

理学療法士・作業療法士養成大学の全国の志願者動向、近畿圏における志願者動向、設置構想中の和歌山保健医療学部(以下、本学部という。)を取り巻く環境や競合大学の動向および、第三者機関による入学意向調査結果等により検証を行った結果、以下に記す内容により継続的に学生を確保し定員を充足する見通しであると判断している。

- ・全国的に保健医療系学部のリハビリテーション系の理学療法士・作業療法士養成大学への進学ニーズが高いこと。
- ・和歌山県下に初めてリハビリテーション専門職を養成する4年制大学であり、地元からの期待値も高いこと。また、就職先も十分に確保できること。(後述の和歌山県医務課からのデータや要望書から)
- ・近隣地区の2大学の入学定員充足状況を検討した結果、理学療法学専攻は、近隣大学2大学と同数の60人、作業療法学専攻は、近隣大学の入学定員充足状況が1校は定員割れの状態であることも考慮して、2校の入学定員より少ない40人と設定したこと。
- ・競合校に比べてキャンパスが交通至便の立地にあること。(JR和歌山駅から約徒歩10分)
- ・既設の宝塚医療大学理学療法学科も理学療法士養成大学として、開学以来順調に志願者を確保していること。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

1) 近畿地区18歳人口予測および進学状況

株式会社リクルート進学総研が学校基本調査を基に作成されたデータ(近畿版)によると、近畿地区の18歳人口の推移は、近畿全体では漸減が続いているが、減少幅は、緩やかなペースで推移することが予想される。また、大学への進学率も近畿地区全体では平成28(2016)年度は54.4%となり、経年では増加傾向である。本学部の地元である和歌山県は43.3%、隣接の大阪府は54.4%と進学率はどちらも増加傾向となっており、今後も増加が見込まれる。和歌山県には、大学の設置が少ないこともあり、県内大学への残留率は11.2%となっており、全国ワースト1位である。和歌山県では若年人口および将来の労働人口の県外流出対策が喫緊の課題となっている。進学等による県外流出に歯止めの一翼を担うために大学誘致に応じ、医療職希望の高校生の県外流出の抑制と大学卒業生の県内就職のために貢献したい。

【資料4】近畿地区の18歳人口予測

【資料5】近畿地区の進学者数・進学率の推移

【資料6】近畿地区の進学者数・進学率・残留率推移

2) 理学療法学科・作業療法学科を含む「保健系学部」への全国的な進学ニーズの高さ

日本私立学校振興・共済事業団 私学経営情報センター集計の「全国私立大学主な学部別の志願者・入学者動向」によると、平成30(2018)年度の全国の保健系学部(理学療法士・作業療法士養成学部)の入学試験動向は、学部数は286学部(前年比12校増)、入学定員は47,971名(前年比1,764人増)、志願者数は254,067人(前年比4,799人増)、入学者数48,533人(前年比1,198人増)、

入学定員充足率は101.4%(前年比2%減)となっており、全国の理学療法士・作業療法士養成校を含む保健系学部への進学ニーズは非常に高いと判断できる。

【資料 7】 全国の保健系理学療法士・作業療法士養成学部の入学試験動向（平成 26 年度～平成 30 年度）

3) 近畿圏におけるリハビリテーション系養成校への進学ニーズの高さ

近畿圏内のリハビリテーション系養成校（理学療法士・作業療法士養成校）である私立大学は33校あり、いずれの大学も平成28（2016）年度から平成30（2018）年度のすべての入学試験形態において、1校を除いて募集定員を上回る志願者を集めている。過去3年間の入学試験を比較すると、志願者数の劇的な変化は見受けられないが、非常に高倍率で安定しているといえる。参考までに過去3年間の推移について志願者数が判明している大学における入学定員の総数と志願者総数との割合は、理学療法士養成校20校では、平成28（2016）年度：9.9倍、平成29（2017）年度：8.9倍、平成30（2018）年度：8.4倍であり、作業療法士養成校13校では、平成28（2016）年度：5.2倍、平成29（2017）年度：5.0倍、平成30（2018）年度：6.0倍で推移している。

また、安定した入学志願者を集めている理学療法士養成大学に比べて、やや入学志願者集めに苦勞している作業療法士養成大学であるが、平成30（2018）年度に初めて入学試験を実施した京都橘大学は20倍、関西医療大学は2.8倍と募集人数を大きく上回る志願者を集めており、近畿圏における大学のリハビリテーション系養成校（理学療法士・作業療法士養成校）への進学ニーズは安定的に推移していることから、本学部においても定員充足が十分見込めることが出来ると思料する。

また、平成30（2018）年度入学試験における志願者数、合格者数、入学者数を公表している理学療法士養成20大学の入学試験状況を見てみると、志願者数の合計は9,254人、入学定員が1,176名であるから志願倍率7.9倍となる。同様に合格者の合計は2,548人で競争倍率は3.6倍となる。入学者数を公表している18大学で見ると合格者数2,373人、入学者数1,131人で、入学歩留率が2.1倍となる。同18大学の入学定員は1,096人あることから、入学定員充足率は103%となっている。続いて作業療法士養成系13大学の入学試験状況を見てみると、志願者数の合計は3,249人、入学定員が540人であるから志願倍率6.0倍となる。同様に合格者の合計は1,230人で競争倍率は2.6倍となる。入学者数を公表している12大学で見ると合格者数1,106人、入学者数479人で、入学歩留率が2.3倍となる。同12大学の入学定員は500人あることから、入学定員充足率は95%となっている。このことから、本学部リハビリテーション学科が拠点とする地域には、競合大学が和歌山県内にはなく、大阪南西部に2校存在するが、受験者は周辺県の三重県、奈良県からも期待できるものと考えている。両専攻合わせて、志願者数350人、合格者数120人、入学者100人を数値目標と設定して、募集活動解禁後は、広報活動を積極的に展開することにより十分に目標達成ができるものと考えている。

【資料 8-1】 近畿地区の私立大学における理学療法士養成校の志願者数推移

【資料 8-2】 平成30（2018）年度近畿地区私立大学における理学療法士養成校の志願者数・合格者数・競争率・入学者数

【資料 9-1】 関西地区の私立大学における作業療法士養成校の志願者数推移

【資料 9-2】平成 30 (2018) 年度近畿地区私立大学における作業療法士養成校の志願者数・合格者数・競争率・入学者数

4) 近畿地区における理学療法士及び作業療法士養成校のある私立大学の設置状況

平成 30 (2018) 年度の近畿地区における理学療法士及び作業療法士養成校のある私立大学の設置状況は、理学療法士養成校は 20 校、作業療法士養成校は 13 校であり、合わせて 33 校が設置されているが、和歌山県には理学療法士を養成する大学は 1 校もなく、専修学校が 1 校(入学定員 40 名)あるのみであり、作業療法士を養成する大学は皆無である。近隣地区の大阪府南西部をみても、養成する大学は 2 校のみである。設置場所は京都府・大阪府・兵庫県に集中している。滋賀県、和歌山県には養成する大学は皆無であり、奈良県に 1 校所在するのみである。地域バランスを考えても和歌山県に位置する本学部は意味あるものとする。

【資料 10-1】平成 30 (2018) 年度近畿地区の理学療法士養成校一覧

【資料 10-2】平成 30 (2018) 年度設置構想中の和歌山保健医療学部の近隣地区の理学療法士養成校一覧

【資料 11-1】平成 30 (2018) 年度近畿地区の作業療法士養成校一覧

【資料 11-2】平成 30 (2018) 年度設置構想中の和歌山保健医療学部の近隣地区の作業療法士養成校一覧

5) 本学部の近隣地区の平成 30 (2018) 年度理学療法士・作業療法士養成校の入学定員及び入学試験状況

本学部の近隣地区の平成 30 (2018) 年度入学定員は、理学療法士養成校では、大学 2 校で 120 人、専修学校 2 校で 60 人と合計で 4 校 180 人であり、和歌山県には大学は皆無である。作業療法士養成校では大阪府南西部に大学 2 校合計で 100 人の定員であり、和歌山県には大学も専門学校も皆無である。

近隣地区に開設されている大学 2 校の平成 30 (2018) 年度の入学試験状況をみると、理学療法士養成校については、入学定員 120 人、志願者数 506 人、合格者数 200 人、入学者数 125 人で競争倍率は 2.5 倍、入学定員充足率は 104%であり、2 大学とも入学定員を充足している。作業療法士養成校については、入学定員 100 人、志願者数 188 人、合格者数 155 人、入学者数 80 人で競争倍率は 1.3 倍、入学定員充足率は 80%である。1 大学で入学定員が未充足である。この結果も考慮し、本学部の入学定員については、理学療法学専攻 60 人、作業療法学専攻 40 人の合計 100 人に設定した。

【資料 12】平成 30 (2018) 年度設置構想中の和歌山保健医療学部の近隣地区の理学療法士養成校入学定員一覧

【資料 13】平成 30 (2018) 年度設置構想中の和歌山保健医療学部の近隣地区の作業療法士養成校入学定員一覧

【資料 14】平成 30 (2018) 年度設置構想中の和歌山保健医療学部の近隣地区の私立大学の理学療法士養成課程の志願者数・合格者数・入学者数

【資料 15】平成 30 (2018) 年度設置構想中の和歌山保健医療学部の近隣地区の私立大学の作業療法士養成課程の志願者数・合格者数・入学者数

6) 近隣地区の高等学校の状況並びに人口動態及び18歳人口の推移

平成30(2018)年度の本学部の近隣地区の高等学校の状況についてみると、和歌山県51校、大阪府南西部に46校の合計97校が設置されている。また、同地域の高等学校の生徒数は、和歌山県28,119人、大阪府南西部39,134人で、合計67,253人の高校生が在学している。今後和歌山県を主戦場にしながら、大阪府南西部も視野に入れながら広報活動を展開し、志願者の獲得に努めたい。

総務省統計局住民基本台帳人口移動報告より作成したこの地域の人口動態の推移をみると、平成30(2018)年度の和歌山県は975,074人、大阪府南西部地区は、1,749,696人、合計2,724,770人であり、僅かであるが人口減少傾向にあり、和歌山県は3年前から100万人を割っている。

18歳人口の推移についても、和歌山県では、平成27(2015)年の8,635人を100としてみた場合、平成35(2023)年には7,911人と91.6%、平成45(2033)年には6,601人と76.4%と推計されている。大阪府南西部地区では、平成27(2015)年の18,411人を100としてみた場合、平成35(2023)年には16,450人と89.3%、平成45(2033)年には13,405人と72.84%と推計されている。将来的には18歳人口の減少が見て取れるが、同地区には競合する高等教育機関が少ないことから今後も定員確保は見込めると思料する。

【資料16】平成30(2018)年度設置構想中の和歌山保健医療学部の近隣地区の高等学校数

【資料17】平成30(2018)年度設置構想中の和歌山保健医療学部の近隣地区の高等学校生徒数

【資料18】設置構想中の和歌山保健医療学部の近隣地区の過去5年間の人口動態

【資料19】和歌山県における18歳人口の推移

【資料20】大阪府南西部における18歳人口の推移

注)大阪府南西部の位置づけの市町村は、堺市・和泉市・和泉大津市・高石市・岸和田市・貝塚市・泉佐野市・泉南市・阪南市・忠岡町・熊取町・田尻町・岬町の13市町村である。

7) 和歌山県の大学等の進学状況及び本学部への地域からの要望等

平成28(2016)年度の旺文社教育情報センターによる和歌山県の大学進学状況をみると、流出先としては大学進学者4,373人の内、大阪府が一番多く1,849人(42.3%)次が和歌山県で490人(11.2%)が県外進学をしている。続いて京都府、兵庫県、東京都が進学先となっている。県内からの流出率11.2%は、全国ワーストワンである。県内大学への入学者1,661人の流入元でみるとこれも大阪府が一番多く721人で、和歌山県は2番目で490人が県内に入学している。続いて兵庫県、奈良県、京都府の順になっている。地元大学への過去5年間の残留率は10%前半から11%前半で推移しており、全国ワーストワンが続いている。また、隣接地である大阪府の高校出身者の占有率は40%前後で推移している。このように大学進学者の県外流出と流入が続いている。このような状況に歯止めをかけるべく、和歌山県及び和歌山市では、和歌山市内への大学の誘致及び学部等の増設支援を行っている。宝塚医療大学も誘致を受け入れて、県外流出の歯止めのための一翼を担うこととした。

また、和歌山県医務課調査によると、理学療法士・作業療法士専門職養成所への過去5年間の進学状況をみると、理学療法士養成校は、年間平均126人で内大学が64人、作業療法士養成校は、年間平均49人で内31人が大学に進学している。理学療法士と作業療法士を合わせて、進学者は年間平均175人、うち県外進学者144人、県外進学者の内訳は大学進学者95人、専修学校

進学者 49 人となっている。このような状況から、理学療法士、作業療法士を養成する大学の和歌山県内での設置について、和歌山県理学療法士協会や和歌山県作業療法士会からも長らく求められており、新たに和歌山県、和歌山市からも大学設置の要望がある。のちに述べるが、和歌山県医務課調査によるリハビリ職の需給予測によると、将来的にも需要が供給を上回る状態が続くと予想されている。周辺国からも和歌山県には理学療法士を養成する専修学校が 1 校（入学定員 40 人）のみで、作業療法士を養成する学校等は皆無であることなどから、十分に定員を充足できると考えている。

【資料 21】和歌山県大学進学状況

【資料 22】和歌山県内高校生の PT・OT 専門職養成所への進学状況推移

【資料 23-1】和歌山県理学療法士協会からの要望書

【資料 23-2】和歌山県作業療法士会からの要望書

【資料 23-3】和歌山県知事からの要望書

【資料 23-4】和歌山市長からの要望書

【資料 23-5】学校法人平成医療学園宝塚医療大学和歌山保健医療学部(仮称)の設置に係る協定書

【資料 24】設置構想中の和歌山保健医療学部の周辺図

8) 既設学部の入学試験状況

過去 4 年間の入学志願状況は下表のとおりである。平成 28 (2016) 年度の設置計画履行状況調査 (AC 調査) において改善意見を受けて、入学定員の抜本的な見直しを行い、平成 29(2019)年度入学試験から鍼灸学科の入学定員を 60 人から 30 人に減員し、開学以来順調に入学志願者を集めている理学療法学科の入学定員を 40 人から 70 人に増員した結果、平成 28 (2016) 年度以降 4 年間の入学定員超過率は理学療法学科 1.06 倍、柔道整復学科 0.94 倍、鍼灸学科 0.72 倍、学部全体では 0.93 倍となっており、全ての学科で 0.7 倍を超えており開学以来の懸案の改善が進んでいる。

現在は従来に増して広報活動の充実に努めており、新たな奨学金制度の策定やスポーツ推薦制度等の導入等を進めた結果が徐々に成果となって表れている。また、平成 32 (2020) 年度からの大学入学試験改革に対応すべく準備を行っているところである。

本学部についても、原則的には、宝塚医療大学の既設学部の募集戦略を踏襲するが、地域の方と連携しながら、和歌山らしいローカル色を出した特色ある募集活動を進める。和歌山県は人口減少が続いているが、温暖な土地柄であり、今後高齢者の増加・移住が進むことが予想される。将来の地域医療の一翼を担うような、志の高い医療人を目指す学生を、数を追うのではなく、質の高い学生を集めたい。

既設学部の国家試験結果については、満足のいく成果が出ているとは言えないが、早期からの対策講義や模擬試験の実施を計画的に行い、学生の弱点を把握し個々の学生の状況に合わせた綿密な指導・助言を行い学習意欲の向上に努め合格率の向上を目指した結果、本年度は、全ての学科で昨年度を上回る成果が出ている。

本学部でも、志願状況に大きく影響を与える国家試験対策については今後とも結果を求めていきたい。

【資料 25】宝塚医療大学の既設学部 of 過去 4 ヶ年の入学試験状況

【資料 26】宝塚医療大学の既設学部 of 国家試験の合格状況

9) 第三者機関による入学意向調査結果の概要

i アンケート調査の概要

宝塚医療大学が和歌山県に設置構想中の「和歌山保健医療学部リハビリテーション学科（仮称）」における入学意向調査を第三者機関に依頼してアンケート調査を実施した。調査概要は以下のとおりである。

- ・調査時期：平成 30（2018）年 11 月から平成 31（2019）年 1 月（3 か月間）
- ・調査対象：平成 31（2019）年に大学入学試験を受験する可能性が最も高い高校 2 年生を対象として、当該学部学科の学生確保の基盤となる和歌山県および大阪府南西部を中心に通学利便性を考慮して周辺他県地域を含めて、大学進学実績等も考慮して抽出した高校にアンケートを依頼し 4,680 件の回答を得た。
- ・調査内容：設問数は 8 問すべて選択方式で実施した。主な設問等の詳細は下記を参照。
- ・調査方法：アンケート調査実施の了承が得られた高校にアンケート用紙および概要を示したプリントを送付した。教職員から教室等で調査対象者にアンケート用紙を配布してもらいその場で回答・回収いただき、調査委託会社に返送してもらう方法で実施した。
- ・調査委託会社：株式会社高等教育総合研究所

ii 主な設問内容および集計結果

問 4 あなたは宝塚医療大学が設置構想中の「和歌山保健医療学部リハビリテーション学科（仮称）」を受験したいと思いますか。

選択項目		回答数	構成比
1.	受験したい	198	4.2%
2.	受験しない	4,407	94.2%
無回答		75	1.6%
合計		4,680	100.0%

問 5 あなたは宝塚医療大学が構想中の「和歌山保健医療学部リハビリテーション学科（仮称）」に合格した場合、入学したいと思いますか。

選択項目		回答数	構成比
1.	合格した場合、入学したい	92	46.5%
2.	合格した場合、併願先の結果によっては入学を検討したい	104	52.5%
無回答		2	1.0%
合計		198	100.0%

問6 あなたが「入学したい」または「入学を検討したい」と考えている専攻をお答えください。

選択項目		回答数	構成比
1.	理学療法専攻	145	73.2%
2.	作業療法専攻	51	25.8%
	無回答	2	1.0%
合計		198	100.0%

問8 あなたが宝塚医療大学が構想中の「和歌山保健医療学部リハビリテーション学科（仮称）」を「受験したい」とした理由をお答えください。（複数回答）

選択項目		回答数	構成比
1.	学びの内容に魅力を感じたから	59	29.8%
2.	医療系の資格取得を考えているから	89	44.9%
3.	学費が安いから	14	7.1%
4.	通学が便利だから	53	26.8%
5.	和歌山県での就職を考えているから	26	13.1%
6.	その他	11	5.6%

※問8は複数回答項目のため、回答数は延べ。各構成比＝回答数 ÷ 198人（問4で1を選択した者）

iii アンケート調査の集計結果のポイント

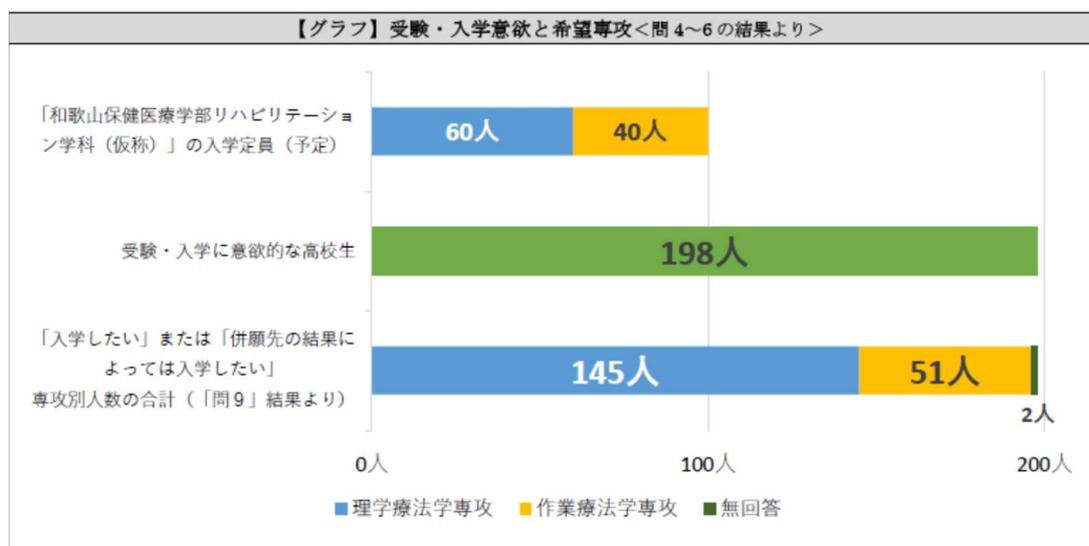
- ・回答者の居住地は和歌山県、大阪府南西部の合計で88.6%を占め、性別は男性が女性を若干上回った。
- ・高校卒業後の希望進路は回答者の約7割が進学を選択した。
- ・当該学部学科への受験意欲については198人が「受験したい」と回答した。
- ・入学を希望する専攻は「理学療法学専攻」145人（73.2%）、「作業療法学専攻」51人（25.8%）となっている。
- ・併願先の進路は「他大学の理学療法または作業療法学科」が42.3%で最多であった。
- ・当該学部学科の受験希望理由は「医療系の資格取得」、「学びの魅力」、「通学の利便性」の3項目が上位となっている。

iv アンケート調査から類推される受験・入学意欲と入学希望専攻の関係および学生確保の見通し

当該学部学科の入学定員は100人で設置する「理学療法学専攻」と「作業療法学専攻」の2専攻について、それぞれ入学定員を60人、40人と想定している。本調査では、入学定員100人に対して約2倍の198人が当該学部学科を「受験したい」と回答している。これらの回答者について、入学意欲と入学を希望する専攻の関係を検証するためのクロス集計を行った結果は下表のとおりである。

入学意欲と希望専攻の関係

選択項目	総計		合格した場合、入学したい		合格した場合、併願先の結果によっては入学したい	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
理学療法学専攻	145	74.0%	65	70.7%	80	76.9%
作業療法学専攻	51	26.0%	27	29.3%	24	23.1%
	196	100.0%	92	100.0%	104	100.0%



上表のとおり受験・入学の意欲を持つと考える者の数は、理学療法学専攻 145 人、作業療法学専攻 51 人と各専攻ともそれぞれの入学定員を上回る結果となっている。特に理学療法学専攻は強い入学意欲を持つと考えられる「入学したい」とする回答のみでも定員想定の 60 人を超えている。また、本調査は和歌山県を中心に大阪府南西部など周辺他県の高校にも依頼しているが、回答居住地の 9 割近くを占める和歌山県と大阪府南西部における依頼校の調査実施率はそれぞれ 71.7%、6.5%となっており、和歌山県については約 3 割の高校が未実施である。堺市を含めた大阪府南西部を中心に依頼したが、当該学部学科に対して比較的利便性の良い地域と考えられる泉大津市以南に限っても実施率が 12.5%であった。上記回答結果および前述の実施状況を踏まえると、今回調査の実施がかなわなかった高校にも当該学部学科への入学意欲を持つ者が潜在する可能性がある。今後の積極的な募集活動を展開することにより、当該学部学科が入学定員を確保できると確信している。

【資料 27】第三者機関による入学意向調査結果

ウ 学生納付金の設定の考え方

本学部の学生納付金は、大学運営の根幹になる財源と考えていることから、設置の意義を踏まえつつ、他大学の状況等を参考として設定した。その結果、本学既設の理学療法学科の学生納付金が、近畿地区同系大学の中位の水準に位置することから、和歌山保健医療学部リハビリテーション学科の理学療法学専攻、作業療法学専攻とも同等の学生納付金とし、初年次学生納付金は 180

万円、4年間合計では640万円とした。内訳は入学金30万円、授業料85万円、施設管理費等65万円であるが4年次のみ70万円の設定である。これによるシミュレーションによると、完成年度には消費収支差額はプラスになることが予想され、学生納付金の設定は妥当なものであると考える。

【資料28】近畿地区関連学部・学科の学生納付金調査一覧

②学生確保に向けた具体的な取組状況

宝塚医療大学のこれまでの取り組みについて述べるとともに、本学部についても、踏襲して取り組んでいく。

本学では学生確保に向け、広報委員会・入学試験委員会(両委員会とも事務職員も委員として参加)と連携しながら、入試課が中心となり様々な取り組みを行っている。広報委員会において、学生募集業務及び各種広報企画を策定して学科内の教員と連携しながら取り組んでいく体制が構築されている。この体制により、「オープンキャンパス」「高校ガイダンス(出前講義)」「高校訪問」「進学説明会」等の学生募集活動及び入学試験業務を教職協働で連携し取り組んでいる。

主な取り組み状況は、以下のとおりである。

1) オープンキャンパス

毎年、各高等学校のイベントや競合大学のスケジュールを鑑みた上で、本学が求める学生が幅広く参加できるよう日程を調整し、内容においても開催時期ごとにテーマを設け、本学の認知向上とともに各学問領域への興味を喚起するものとなっている。平成30(2018)年度は11回開催した。具体的には、「各学科紹介」「実技体験授業」「模擬講義」「入学試験説明」「在学生によるフリートーク」に加え、「保護者のための進学説明会」を実施し、高校生だけでなく保護者への情報提供にも注力している。

また、参加高校生等から身近なお兄さん、お姉さんの存在として評価の高い本学学生による広報隊を平成28(2016)年度より結成し、1年目は18人、平成29(2017)年度は27人、平成30(2018)年度は45人と年々参加者が増加している。協力していただいている学生たちの参加意識も高く大変効果が上がっている。

オープンキャンパス参加者数の状況は、以下のとおりである。順調にのびており、平成31(2019)年度は参加者数を1,000人と目標設定している。本学部についても、積極的な取り組みで参加者を集めたい。特に作業療法士養成学校は、和歌山では初めての開設であることから、和歌山県作業療法士会とも連携しながら高校生への周知を図りたいと考えている。また、理学療法養成学校も4年生大学の開設は和歌山県初めてのことから、計画的にしっかりPRに取り組む予定である。

【表1】 オープンキャンパス参加者数の推移(3年間)

年度	理学療法科	柔道整復学科	鍼灸学科	合計
平成30(2018)年度	468	312	98	878
平成29(2017)年度	413	256	82	751
平成28(2016)年度	273	142	54	469

2) 受験雑誌・進学サイト等への告知広告

毎年広告効果の分析を行いながら、既存の掲載情報に加え新企画への掲載・新規媒体への出稿・広告枠の拡大などを順次実施する。掲載時期・媒体ごとに出稿する文言や表現を適切に調整し、一貫性を持たせながらも様々な角度から学生に訴求できる体制を整えている。また、対象については受験生を中心にしながら保護者や高校教員向けに広げ、認知への充実を図っている。開学以来、当該媒体からの資料請求数や当該媒体へのアクセス数は通増しており、今後もさらなる増加が期待できる。

昨年度から、鍼灸学科・柔道整復学科の募集対策として、高校生対象の九州地区・近畿地区中国地区の柔道大会や、毎年大阪で行われる全国から高校生が集まる柔道大会等で、参加者に配布されるプログラムに認知広告の掲載を行っている。徐々に効果が上がっており、一部の大会には教員と学生が現場に赴きブースを設けるなどして、サポートを行っている。

また、本学が大阪市内から遠いというイメージを払拭する告知方法にも工夫を凝らしている。実際には、大阪駅・梅田駅から30分圏内にあり、スクールバスの運行も行っている。

本学部では、アクセスも恵まれていることから、学生募集地域を和歌山県からの流出阻止を目指して、和歌山県紀南地域、大阪府南西部地域、奈良県南部地域、三重県西部をターゲットとして募集・広報活動を行いたいと考えている。

【表2】 本学への資料請求件数（3年間）

年度	平成 28 (2016) 年度	平成 29 (2017) 年度	平成 30 (2018) 年度
資料請求件数	2,522	2,807	4,801

3) 高校ガイダンス・出前講義

本学の通学圏内として見込めるエリアを中心に、年間を通してガイダンスを実施している。

実施分野を限定し、医療・福祉関連への興味関心の高い生徒との接点を増やすと同時に、対象者を意識したパンフレットを作成して周知をしている。また、本学との高校訪問等を通じて関係が密接になりつつある、中国・九州地区での高校ガイダンスにも積極的に参加している。現在和歌山県の高校からの要望には特に積極的に参加している。

高校現場からの要望の高い、スポーツ関連課外活動高校生を集めてのトレーニング方法や体のケア等についての実技を含めた出前授業をさらに増やす予定である。

和歌山県内初めてのリハビリテーションを学べる4年生大学であることから、県内の高校を訪問して、和歌山県理学療法士協会、和歌山県作業療法士会とも連携しながら、リハビリテーション職の職務内容等の周知を図り、募集にも効果を上げたい。

【表3】 高校ガイダンス・出前講義参加実績（3年間）

年度	平成 28 (2016) 年度	平成 29 (2017) 年度	平成 30 (2018) 年度
高校ガイダンス・ 出前講義参加実績	延べ 65 校で実施、 566 人と接触	延べ 46 校で実施、 522 人と接触	延べ 49 校で実施、 587 人と接触

4) 高校訪問

高校訪問は、募集戦略の肝と考えており、積極的に展開している。訪問目的と必要性を吟味し、訪問対象校や訪問時期・訪問回数・提案内容・接触者を精査しながら、本学の認知を高めることで当該分野に興味のある生徒の獲得を狙うとともに、地元志向も高まっていることから、地元校との連携を踏まえ、高大接続の機会を増やすよう努めている。本年度より、中四国地区・九州地区・北信越地区の訪問を強化している。また、教職員の担当高校（本学への1時間半程度の通学圏の高校）を決め、競争意識を持って取り組み、地元への訪問も回数・内容ともに充実させている。過去3年間の高校訪問数は次表の通りである。

平成31（2019）年度の高校訪問数については延べ1,000校の訪問を目指している。

【表4】 高校訪問数（3年間）

年度	平成28（2016）年度	平成29（2017）年度	平成30（2018）年度
高校訪問数	延べ881校	延べ681校	延べ718校

（予備校・塾を含む）

5) 本学 WEB サイト

本学 WEB サイトに本学科設置の案内ページを開設し、既存サイトとの差別化を図り興味を促すとともに、日々更新される最新情報を滞りなく発信するツールとして活用している。

関西だけではなく、実際に本学に来校することが容易ではない全国の生徒や保護者に対しても即時的に請求することができ、一定の評価を得ている。さらに、ブログや SNS (Social Networking Service) を活用し、大学からの情報発信を活発に行い、大学の中身を積極的に伝えている。平成31（2019）年度には大幅なりニューアルを検討しており、10月には新たな WEB サイトが開設される予定である。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)

宝塚医療大学は、「徳義の涵養と人間性尊厳の実践を理念とし、医療人たる社会的責務を自覚せしめ、国際社会に伍して恥じぬ恒心をもつ、有徳の人材を育成する」を建学の精神として、生命を尊重し、人間の尊厳に関する深い洞察力を持ち、高い創造力や問題解決能力を有し、積極的に研究活動に取り組む人材を育成することを目的と定めている。さらに本学保健医療学部規則第3条で保健医療学部の目的について「人間性豊かな幅広い教養，高い倫理観，高い創造性，理論的思考力，問題発見・解決の能力，生涯にわたり学び続ける意思と能力などを身につけることのできる教育を行い，医療技術専門職として強い使命感と責任感を有し，コミュニケーション能力が高く，患者との間に良好な信頼関係が樹立できる能力を持ち，さらに，医療に係わる最新の専門的知識，先端医療科学にも対応できる能力を持って，医療チームの一員として医療を支援できる医療技術者，並びに運動を通じて健康の維持・管理を行い，生活習慣病の予防，QOL（生活の質）の向上を図ることのできる運動健康指導者や学校管理下における挫傷・打撲，骨折，捻挫の怪我等による不足の事態に的確な応急処置ができる者の育成を図る」ことを目的とすると定めている。

本学部でもこの建学の精神と目的を達成するために、以下の能力を有する人材を養成する。

- ・豊かな人間性と高い倫理観を持つ人材
- ・社会の要請に応えうる知識と技術を持つ人材
- ・論理的思考力を持つ人材
- ・高い創造性と問題解決能力を持つ人材

上記学部の人材養成の目的に基づき、各専攻における人材養成の目的を次のとおり定めている。

リハビリテーション学科理学療法学専攻

- ・幅広い教養と医療人として必要な高い倫理観・道徳心を身に付けた人材
- ・理学療法士として必要な医療に関する基礎的知識と社会人として様々な分野で活用できる知識を身に付けた人材
- ・理学療法士として必要な専門的な医療知識および技術を身に付けた人材
- ・研究の素養を身に付け、自ら課題を発見し、解決策を見いだす力を持つ人材
- ・地域創生に貢献する意欲と能力を持つ人材

リハビリテーション学科作業療法学専攻

- ・幅広い教養と医療人として必要な高い倫理観・道徳心を身に付けた人材
- ・作業療法士として必要な医療に関する基礎的知識と社会人として様々な分野で活用できる知識を身に付けた人材
- ・作業療法士として必要な専門的な医療知識および技術を身に付けた人材
- ・研究の素養を身に付け、自ら課題を発見し、解決策を見いだす力を持つ人材
- ・地域創生に貢献する意欲と能力を持つ人材

本学部は、和歌山県の学生を県内で教育し、県内で就職することを目指すことで、地域の医療・保健に貢献することを目指す。高齢化の進展、疾病構造の変化等に伴い、理学療法士・作業療法士の必要性、重要性が一層増してきていることから、身体に障害や疾病のある人々に対し、基本

的動作能力・応用的動作能力または社会的適応能力の回復を図るための理学療法・作業療法を行う専門職であることから、主な就職先としては、大学・総合病院、福祉行政機関、訪問リハビリテーション施設、介護老人保健・福祉施設、スポーツ施設等が考えられる。

② 社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

ア 現況と人材需要

○理学療法士の従事者の現況

厚生労働省の「病院報告」によると、平成 29 (2017) 年度の理学療法士の病院従事者は、78,439 人であり、一般の診療所従事者を含めると 91,695 人であり、年々 4,000 人程度ずつ増加している。近畿地区における病院従事者を見ると和歌山県は 740.1 人 (全国 34 位) で下から 2 番目である。人口 10 万人に対する理学療法士数は 77.6 人 (全国 11 位) であり、対 10 万人比率は全国でも上位に位置している。大阪府は 5,568.3 人 (全国 2 位) で、本学部の近隣地区である大阪府南西部地域は 1,257.3 人で大阪府全体の 22.6% を占めている。平成 30 (2018) 年度の日本理学療法士協会の統計情報によると、近畿地区での和歌山県の会員数は 1,372 人で上から 4 番目である。平成 30 (2018) 年度の会員増が顕著である。

【資料 29-1】 過去 5 年間の理学療法士病院従事者数 (全国)

【資料 29-2】 近畿地区府県別に見た理学療法士の数

【資料 29-3】 日本理学療法士協会の府県別会員数の推移

【資料 29-4】 設置構想中の和歌山保健医療学部の近隣地区の過去 5 年間の理学療法士従事者数

○作業療法士の従事者の現況

厚生労働省の「病院報告」によると、平成 29 (2017) 年度の作業療法士の病院従事者は、45,165 人であり、一般の診療所従事者を含めると 77,853 人であり、年々 1,500 人程度ずつ増加している。近畿地区の病院従事者を見ると和歌山県は 307.2 人 (全国 47 位) で最下位である。人口 10 万人に対する理学療法士数は 32.2 人 (全国 28 位) であり、対 10 万人比率は全国では中間位に位置している。大阪府は 2,387 人 (全国 4 位) で、本学部の近隣地区である大阪府南西部地域は 576 人で大阪府全体の 24.16% を占めている。平成 30 (2018) 年度の日本理学療法士協会の統計情報によると、近畿地区での和歌山県の会員数は 436 人で最下位である。会員数は少しずつ増加しているが、和歌山県内に作業療法士養成校の設置が皆無であることが影響していると考ええる。

このように理学療法士、作業療法士ともに全国、近畿地区、和歌山県でも病院等への従事者は、順調に増加しながら推移している。今後もこの傾向は続くと考ええる。

【資料 30-1】 過去 5 年間の作業療法士病院従事者数 (全国)

【資料 30-2】 近畿地区府県別に見た作業療法士の数

【資料 30-3】 日本作業療法士協会の府県別会員数の推移

【資料 30-4】 設置構想中の和歌山保健医療学部の近隣地区の過去 5 年間の作業療法士従事者数

○過去 5 年間の理学療法士・作業療法士の国家試験合格者

平成 30 (2018) 年度の理学療法士の国家試験合格者の結果を見ると、受験者 12,148 人、合格者数 9,885 人である。合格率 81.4% で前年度より 8.9 ポイント下がっていて、難化傾向にある。同じく作業療法士の国家試験合格者の結果を見ると、受験者 6,164 人、合格者数 4,700 人である。

合格率 76.2%で前年度より 7.5 ポイント下がっていて、これも難化傾向になっていることが読み取れる。理学療法士は 10,000 人前後、作業療法士は 5,000 人前後の合格者で推移している。受験者も微増を続けている。全国的にみると従事者数の推移と国家試験合格者との需給関係はすこし乖離があるが、和歌山県については、本学部が卒業生を出すようになって、後述するように、需要が供給を上回る状態が継続すると考えている。

【資料 31】 理学療法士国家試験結果（過去 5 年間）

【資料 32】 作業療法士国家試験結果（過去 5 年間）

イ 今後の求人見通し

今後の求人見通しについては、近年、急速な少子高齢化が進行し、社会環境や医療環境が大きく変化進行する中で、リハビリテーション専門職である理学療法士・作業療法士の進路はこれまでの病院や診療所といった職域以外に健康関連分野の企業にも需要が広がっている。

今後は保健所、健康増進センター、特別養護老人ホーム、老人保健施設、訪問看護ステーション、児童福祉施設、教育研究機関、各種スポーツチーム、スポーツ関連企業・施設などに理学療法士・作業療法士の特性を生かした新しい職域の需要が拡大されることが期待される。

宝塚医療大学（兵庫県宝塚市所在）に届いている平成 29（2017）年度の理学療法士に対する求人について、求人募集要項の中から求人数を抽出してみると、近畿地区で 236 院から、860 人の求人がある。本学の入学定員が 70 人でその入学者が卒業すると考えると求人倍率は 12.3 倍となる。本学部の近隣地域から既設の理学療法学科に届いている求人は、33 病院から 121 人の求人があり、入学定員を 60 人とすると、求人倍率は 2.0 倍となり、既設大学に届いている求人でも定員を上回り、順調に推移している。このように卒業生の進路は十分に確保できるものと考えている。

後述するが、和歌山県のリハビリテーション専門職の需給が逼迫していることから、将来を通じて需要が供給を上回る状態が続くと考えられる。

【資料 33】 宝塚医療大学の既設学部・学科に届いた近畿地区理学療法士求人数

【資料 34】 宝塚医療大学の既設学部・学科に届いた設置構想中の和歌山保健医療学部の近隣地区理学療法士求人数

1) 既設大学の就職状況等について

既設大学の過去 3 年間の理学療法学科の就職率は、平成 27（2015）年度の 87.9%、全学 92.5%、平成 28（2016）年度、平成 29（2017）年度は両年とも 100%であり、全学でも平成 29（2017）年度は 100%である。求人施設数も順調に推移している。以下に本学の取り組みの一部を紹介したい。

学内で実施する学内合同就職説明会を、平成 26（2014）年度から実施しているが、本学卒業予定者を超える採用希望の病院・施設が参加している。現在は会場のスペースの関係で午前、午後と 2 回に分けて実施しているが、参加をお断りする病院等もあるように本学学生への採用意欲は高いと感じている。この就職説明会はブース形式の説明会で、3、4 年生を対象として実施している。この催しで、就職先の決まる 4 年生も多数出ている。また、医療人としてのマナーの醸成や臨地実習先との関係強化が出来る等の波及効果も出ている。

一般的にリハビリテーション専門職の採用予算は看護師募集に比べて、理学療法士・作業療法士職は流動性が少ないこともあり予算が少額であり、合同就職説明会のような採用の場も少ない。そのために実習先への就職が多くみられることから、密接・緻密な関係の構築が必要であり、優秀な学生を育て、巣立ちさせることが肝要であると考えている。

本学部でも、このような取り組みを踏襲して、和歌山県内への就職を誘導して、労働人口の県外流出の歯止めとしたい。

【資料 35】宝塚医療大学の既設学部・学科の就職の状況（過去 3 年間）

2) 和歌山県のリハビリテーション専門職の需給状況について

平成 28（2016）年 10 月に実施された、和歌山県医務課による 75 病院へのアンケート調査からみられるリハビリ専門職の需給状況は、現在の配置数（従事者数）理学療法士 767 人、作業療法士 297 人、言語聴覚士 142 人（これ以後言語聴覚士についての言及は省略する）である。

平成 37（2025）年の必要数は、理学療法士 938 人、作業療法士 414 人の従事者数が必要とされている。過不足数は、理学療法士 171 人、作業療法士 117 人が不足しており、充足割合は、理学療法士 81.8%、作業療法士 71.7%となっている。理学療法士を増やしたい病院が 46 病院（61%）作業療法士を増やしたい病院が 37 病院（49%）という結果が出ている。なお、和歌山県医務課よりレポートされている「リハビリ系大学の必要性」についても、リハビリ職の需要増大について記述されているが、それを引用すると以下のとおりとなる。

- ・県内における有効求人倍率は高水準で推移している
- ・地域医療構想（平成 37（2025）年の医療需要予想で回復期機能病床の不足）において、病院ではリハビリ職が不足する
- ・高齢化の進行により地域包括ケアシステムの構築が必要。在宅医療・介護にリハビリ職の必要性が増大する

また、和歌山県長寿社会課による介護人材需給推計による、介護施設でのリハビリテーション専門職従事者の不足は鮮明であり、平成 27（2015）年度 697 人の人材が必要としているが、平成 37（2025）年には 846 人の人材が必要と推計されており、149 人の不足が予測されている。

このように和歌山県でのリハビリテーション専門職の需給は逼迫している状態が続くと思われ、将来的にも需要が供給を上回る状態が継続されると予想される。

【資料 36】和歌山県内病院における PT・OT・ST の需要

【資料 37】和歌山県内介護施設等における PT・OT・ST の需要推計

【資料 38】和歌山県へのリハビリ系大学の必要性

3) 第三者機関による人材需要の見通し調査結果の概要

i アンケート調査の概要

宝塚医療大学が平成 32（2020）年度に和歌山県に設置構想中の「和歌山保健医療学部リハビリテーション学科（仮称）」における将来の卒業生の就職が想定される和歌山県を主として地域の医療関連施設を対象に人材需要の見通し調査を第三者機関に依頼してアンケート調査を実施した。調査概要は以下のとおりである。

- ・調査時期：平成 30（2018）年 11 月から平成 30（2018）年 12 月（2 か月間）

・調査対象：和歌山県内の医療機関・介護・福祉施設に一部大阪府南西部の医療機関を加えた 266 ヶ所を対象に依頼し、有効回答数 98 件、回収率 36.8%であった。

・調査内容：設問数は 10 問で主に選択方式で実施し、一部記述式を採用した。主な設問等の詳細は下記を参照。

・調査方法：調査対象先の人事・採用担当者宛に 依頼状・アンケート調査を送付し、協力いただける場合は、回答を調査委託会社に返送してもらう方法で実施した。

・調査委託会社：株式会社高等教育総合研究所

ii 主な設問内容および集計結果

・問 1 から問 6 回答医療機関の基本情報（所在地、種別、理学療法士・作業療法士の従事状況、平成 30（2018）年度採用状況・充足状況等）の設問内容である。

・問 7 当該学部学科に対して期待する点

・問 8 当該学部学科卒業生に対する採用意向

・問 9 採用可能と思われる人数

iii 設置構想についての事業所アンケート調査の集計結果のポイント

・回答のあった 98 ヶ所の医療機関等のうち和歌山県が 88 ヶ所（全体の 87.8%）となった。

・回答医療機関等の種別は病院・診療所と老人保健施設の 2 種の合計で全体の 8 割を超えている。

・回答医療機関等における理学療法士・作業療法士の従事状況は、「ともに従事している」が全体の半数を超える 57 ヶ所（全体の 58.2%）で最も多かった。

・現在勤務している理学療法士・作業療法士の数は、理学療法士が 86 ヶ所 985 人、作業療法士が 65 ヶ所 352 人となっている。

・回答医療機関等の平成 30（2018）年度採用人数の平均は、理学療法士 2.8 人、作業療法士 2.4 人となっている。

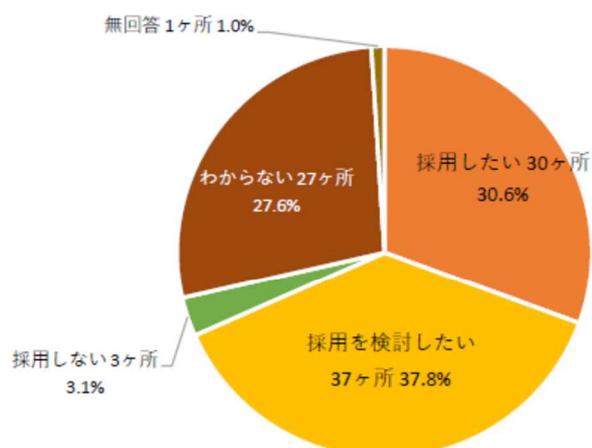
・理学療法士・作業療法士の充足状況については、「不足している」という回答の合計が全体の 57.2%となっており、「過剰である」との回答はなかった。

・当該学部学科設置構想において期待する点については、「和歌山県の生徒を積極的に受け入れること」とする回答が全体の 52%で最も多かった。

iv アンケート調査から類推される「採用意欲」と「採用可能人数」の関係および人材需要の見直しについて。

宝塚医療大学が平成 32（2020）年度に和歌山県に設置構想中の「和歌山保健医療学部リハビリテーション学科（仮称）」における各専攻の将来の卒業生の採用については、「採用したい」が 30 ヶ所（全体の 30.6%）、「採用を検討したい」が 37 ヶ所（全体の 37.8%）と回答し、合計 67 ヶ所（全体の 68.48%）が採用意欲を示す結果となった。またこの 67 ヶ所から示された具体的な採用可能人数の合計は、理学療法士 95 人、作業療法士 88 人となり、当該学部学科におけるそれぞれの養成課程である理学療法学専攻 60 名と作業療法学専攻 40 人の定員を大きく上回る結果となっている。採用可能人数について無回答の施設・機関においても卒業生採用の可能性は高いと考えられ、それらは理学療法士について 16 ヶ所、作業療法士は 11 ヶ所ある。以上の結果および本調査の回収率等も勘案すると当該学部学科卒業生の人材需要については十分なものがあると考えられる。

【グラフ】当該学部学科卒業生に対する採用意欲<問8の結果より>



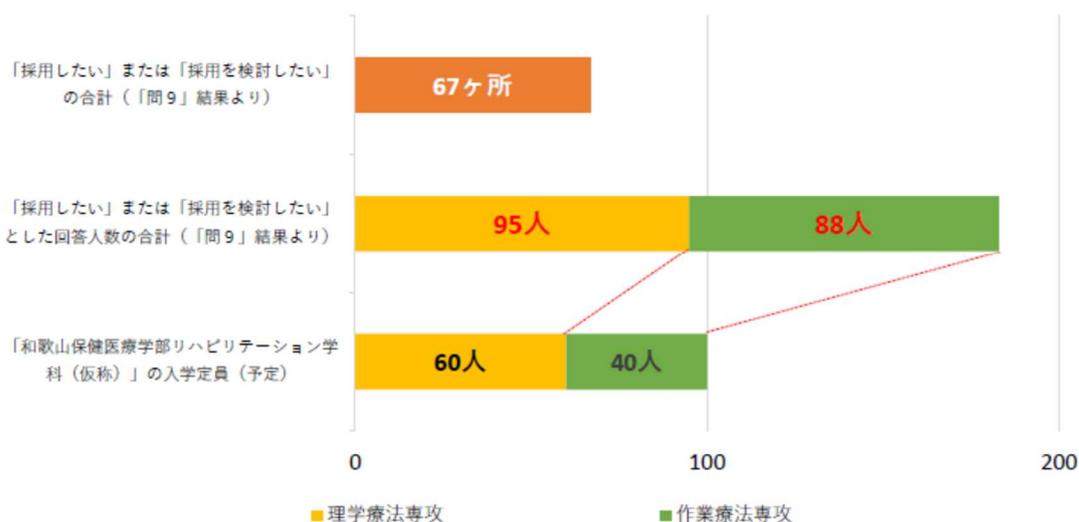
問9集計結果再掲

【理学療法士】

【作業療法士】

記入人数	回答数	人数合計	記入人数	回答数	人数合計
1人	26	26人	1人	36	36人
2人	15	30人	2人	14	28人
3人	8	24人	3人	3	9人
5人	1	5人	5人	3	15人
10人	1	10人	無回答	11	-
無回答	16	-	合計	67	88人
合計	67	95人			

【グラフ】当該学部学科卒業生の採用可能人数<問9の結果より>



以上の調査結果と和歌山県のリハビリ系需要推計等の数値予想を鑑みると、宝塚医療大学和歌山保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻 60 人、作業療法学専攻 40 人の卒業生の進路は十分に確保できるものとする。

【資料 39】 第三者機関による人材需要の見通し調査結果